



〒975-0031  
福島県南相馬市原町区錦町一丁目 30 番地  
TEL:(0244)26-1315  
FAX(0244)26-1318  
E-mail:sousou.kyouiku@pref.fukushima.lg.jp

双葉郡教育復興ビジョン推進協議会

## 第7回双葉郡小学校絆づくり交流会

- 日 時：令和6年7月29日（月）10：00～13：15
- 会 場：大熊町立学び舎ゆめの森
- 内 容：交流会を含む絆づくり活動
- 開催目的：①ふたばの未来を見据えた8市町村小学生による町村の垣根を越えた仲間づくり  
②双葉郡内小学校の教職員同士の交流、情報交換
- 参加者：346名（児童255名 教職員91名）



**交流活動** 東日本大震災以降行われてきた、絆づくり交流会は、7回目を迎えました。途中、新型コロナウイルス感染症のため、実施することができない年もありましたが、今年度は、大熊町立学び舎ゆめの森で開催することができました。3つのグループに分かれての活動は、笑顔が絶えないものばかりで、暑さを忘れる程の盛り上がりを見せていました。



3,4年生は、「バースデーチェーン（誕生日ごとに並ぶ）」では、「自己紹介」をしながら、和やかな雰囲気へと誘われて行きました。「紙コップタワー」では、挑戦する緊張感で、「まだまだ、行けるよ！」「頑張っ！」「いい感じだよ。」と更に大盛り上がりでした。1,2年生は、アリーナを使って「猛獣狩りに行こうよ！」「じゃんけん列車」「上手に運ぼう」です。また、5,6年生は、「謎解きウォークラリー」「新聞タワー選手権」です。どちらもチームワークと知識が求められる活動で、「この意味分かる？」「どういうことだろうね？」「○○○じゃない？」みんなで話し合いながら謎を解く楽しさは、交流をより一層深めました。

午前の活動が、あっという間に終わり、お昼の時間も班やみんなで仲良くお弁当をいただきました。「手を合わせてください。…ごちそうさまでした。」スタッフや先生方のおかげで今年も「絆づくり&交流」は盛り上がり、夏休みの最高の1日となりました。



【児童の感想】「最初はしゃべれなかったけど、話せるようになりました。」「他の学校のみなどとやれてよかったです。」「アリーナでの活動は（冷房で）涼しくて、集中できました。」「楽しかったです。来年も参加したいです。」「仲良くできました。」



# 第9回双葉郡中高生交流会

FUTABA 1DAY SUMMER SCHOOL

- 日時：令和6年8月1日（木）10：30～15：30
- 会場：福島県立ふたば未来学園中学校・高等学校
- 内容：選択制参加型のワークショップ形式・各分野のプロとともに興味関心に応じて選んだ表現方法で協同して活動するプロセスを体験する。
- 実施目的：○中学生同士、中高生間で交流し、お互い共感したり認め合ったりしてつながりを感じる  
○普段の学校生活の中ではできない学びを体験し、主体的に参加することで、わくわくする

開校式では、ふたばの教育復興応援団・全体プロデュースの作詞家、**秋元康さん**から、「この世の中は、きっかけで成り立っています。（人との出会いを大切に！）講師の方々は、日本をリードしている・活躍している素敵な皆さんです。」と紹介がありました。「将来、自分の人生があるのは、この機会、きっかけがあったからと言える1日にしたいですね。」と励ましの言葉をいただきました。生徒たちの主体性・協働性・創造性が発揮できるようにと工夫を凝らした内容で、ワークショップが進められました。

A組 「未来のウェブクリエイター：生成AIで夢のサイトを創ろう！」	B組 「あの名曲をみんなで踊ろう！」	C組 「食の力を感じよう」
<b>大塚敏之さん</b> GALLUSYS 代表	<b>橘ケンチさん</b> EXILE / EXILE THE SECOND パフォーマー	<b>平子良太さん</b> I'm donut ? オーナーシェフ
D組 「しゃべり下手大集合！」	E組 「2.5次元ミュージカを“体験”しよう！」	F組 「色々な夢の叶え方を知ろう」
<b>古舘伊知郎さん</b> フリーアナウンサー	<b>松田誠さん</b> ネルケプランニング ファウンダー <b>植木豪さん</b> 演出家	<b>渡辺淳之介さん</b> 音楽プロデューサー・作詞家

私は、家族の仲では、一番無口でした。高校2年のときに、プロレスが好きだったことが高じて、その実況を人前で話すきっかけをいただき、そのとき手応えを感じました。人生が大きく動きました。「初めは（話し方が）下手でも結構。好きだと思っている気持ちやコミュニケーションが発酵して、やがて成就します。オチなんてなくてもいい！」

そのとき思いが伝われば、感動を呼びます。皆さんが、日頃感じていること

や不思議だなあと思うことを取り上げてみましょう。

「その感性は、どこから生まれてきたの？」

…いいね。」



「（舞台）サイボーグ009の一場面をやりましょう！」  
「やりたい人は、手を上げて！」なかなか手が上がらない（消極的だった）状況の中でも優しく、**植木さんと松田さん**がリードします。「君なら…。あなたなら…。」「できるよ。やってみない。」「決めポーズは、自分で考えてみてね！」  
「いいね」「最高だ！」生徒に自信を持たせている言葉使いが印象的でした。

